



子どもの気持ちになってハンドルを  
—— 石川さん  
スピードを落として気をつけて  
—— 高畑さん  
誰もが心にゆとりをもって  
—— 下川さん



**子ども安全リーダーとして活動**  
.....  
**石川富美代さん** (水口町)  
子どもの登下校の見守りを始め  
て10数年になります。自分が  
できる範囲でやっていますが、子  
もたちの顔を見ることが楽しく、  
ほとんど毎日元  
気をもらって  
います。  
朝の時間帯は、  
通勤で急ぐ車が多  
いせいか、皆さん  
スピードを出し過  
ぎているようで  
す。混雑を避ける  
ためか狭い道を迂  
回路にして急いで

歩かなければならないからです。雨の日は特に危険です。  
子どもたちは毎日、戯れあったり、話に夢中になったりしながら、学校に通っています。低学年の小さな子どももいますし、日によっては少ししょんぼりしている子どももいます。運転席からはそんな細かな様子までは分かりませんが、子どもの気持ちになってハンドルを握ってほしいと思います。都会へ行けば歩行者を優先するのが当たり前になっていますが、ここでは車が優先されているように思います。子どもたちが毎日、笑顔一杯で通学できるように、人に優しい運転をお願いしたいです。

行かれるのですが、子どもたちにとっては大変危険です。横断歩道も車に停止を求めるのはかえって危険で、途切れるのを待つて道路を渡らせています。店先に止められた車も子どもたちにとっては迷惑です。止めた車を避けるようにして車道を



**県地域安全マップコンで最優秀賞に輝いた多羅尾小を代表して**  
.....  
**高畑ひかるさん** (多羅尾小)  
いつも学校の行き帰りは、下学年の子を真ん中にして一列で歩いていきます。それでもときどき、カーブの場所で自動車にすれ違ふときに怖いなと思

うこともありま。曇っているカーブミラーもあって、向こうから来る自動車が見えにくいこともあります。運転する人は、スピードを落として、交通安全に気をつけてほしいと思います。子どもの列に自動車があつ込んだ、という事故の話を聞くと、とても怖いです。みんなが交通ルールを守って、甲賀市でそんな事故が絶対起こらないでほしいと思います。スピードの出過ぎやお酒を飲んで運転すること、携帯電話をしながら運転することもやめてほしいです。

交通安全教室が開かれたとき、トラックの運転席へ乗せてもらったことがあります。高い所から遠くまで見えましたが、運転席のすぐそばは見えないことが分かりました。大人の人でも見えないというこどもも教えてもらいました。トラックや自動車の死角に入ることがすごく危ないことが分かったので、私たちが気をつけたいと思います。



**15年間無事故無違反で表彰を受けた**  
.....  
**下川美鈴さん** (水口町)  
今から30年前に事故に遭ったことがありません。交差点で一旦停止違反のトラックに当てられました。相手は、保険に加入していない人で、子どもと一緒に乗せていました。経済的な問題もあって、治療費や車の修理代の補償もなく、その時はなんて運が悪いんだらうと思っていました。でも、時がたつうちに、相手ばかりを責めていても何もならないという気

持ちになり、事故を起こさないうちに、事故に遭わないように、いつでも気をつけています。特に、車間距離は十分にとつて、心にゆとりを持って運転するように心がけています。事故に遭った経験から、被害者の気持ちがよく分かるような気がします。危険ドラッグでの事故に巻き込まれたご遺族は本当にいたたまれないだろうと心が痛みます。なかには、見ていてもドキッとする運転をする人がいます。一度でも交通事故を起こしてしまったら、自分だけの責任ではすまされません。家族や周りの人が不幸になります。命にかかわるようなことになれば、取り返しのつかない大変なことになると思います。ちよとした普段の心掛で悲しい事態が避けられます。私もこれまで無事故無違反を続けることができましたが、表彰をいただいたことを機に、一層気をつけて運転したいと思っています。

## 安全運転に胸を張れますか

**自** 動車の安全運転についてのお話をさまざまな角度から伺いました。「人」が自動車を操っていますので、「絶対」ということはありません。考え事や心配事などの心理面によって、うっかりミスを招く場合もあります。しかし、スピードやシートベルト、運転中の携帯電話使用などは、最も基本的なルールでミスとは違います。そして、ルールの上にマナーやモラルがあるのです。自動車は、欠かせない交通手段です。家族の数だけ保有されているご家庭も珍しくありません。その一台一台の全てに模範的な運転を求めることは難しいかもしれませんが、ハンドルを握る限り、安全運転をしていると胸を張れるか、自問することはできません。ご自身、ご家族、道路を利用する高齢者や子どもたちのかけがえない命が傷つけられないよう、もう一度振り返っていただい。